

平成 29 年度 第 2 回練馬区立美術館運営協議会次第

日時：平成 30 年 3 月 27 日（火）午後 2 時

場所：サンライフ練馬 研修室

（審議事項）

- 1 平成 30 年度事業計画（案）
 - （1）収支予算
 - （2）展覧会事業
 - （3）教育普及事業

（報告事項）

- 2 平成 29 年度事業報告（中間報告）
 - （1）展覧会事業
 - （2）美術作品の収集事業（再掲）
 - （3）広報活動と反響

- 3 その他

平成29年度

第2回 練馬区立美術館運営協議会

練馬区立美術館

(平成30年3月27日)

平成 29 年度第 2 回練馬区立美術館運営協議会資料 目次

練馬区立美術館運営協議会委員名簿	1
練馬区立美術館運営協議会条例	3
1 平成 30 年度 事業計画 (案)	
(1) 平成 30 年度収支予算	5
(2) 展覧会事業	6
①戦後美術の現在形 池田龍雄展 楢岡幻想	7
②生誕 120 年 中村忠二展	8
③芳年一激動の時代を生きた鬼才浮世絵師展	9
④笠井誠一展 (仮称)	10
⑤人間国宝 桂盛仁の金工の世界 (仮称)	11
⑥アール・デコの至宝 ルネ・ラリック展 (仮称)	12
(3) 教育普及事業	
①平成 30 年度教育普及事業計画 (案)	13
2 平成 29 年度事業報告 (中間報告)	
(1) 展覧会事業	16
(2) 美術作品の収集事業	
①美術作品の収蔵状況 (再掲)	18
(3) 広報活動と反響	19

第 16 期 練馬区立美術館運営協議会委員名簿

		氏 名	役 職
学識経験者	委員	あわづ のりお 栗津 則雄	文芸評論家
	委員	たかはし こうじ 高橋 幸次	日大芸術学部美術学科教授
	委員	あおき しげる 青木 茂	明治美術学会会長
	委員	いずい ひでかず 伊豆井 秀一	埼玉県立近代美術館 元専門員兼学芸員
	委員	さとう やすひろ 佐藤 康宏	東京大学教授
	委員	しまだ のりお 島田 紀夫	実践女子大学名誉教授
	委員	ないとう まさと 内藤 正人	慶応義塾大学教授
練馬区議会議員	委員	かさハラ こうぞう 笠原 こうぞう	区議会議員
	委員	はしもと けいこ 橋本 けいこ	区議会議員
	委員	いわせ たけし 岩瀬 たけし	区議会議員
	委員	やまだ かずよし 山田 かずよし	区議会議員
公募区民	委員	まえだ ひさこ 前田 尚子	公募区民
	委員	すどう あさよ 須藤 麻世	公募区民
	委員	さいとう のりこ 齋藤 宜子	公募区民
美術団体関係者	委員	よしだ みぞう 吉田 巳蔵	練馬・文化の会代表
	委員	しまだ こういちろう 島田 紘一呂	練馬区美術家協会 会長
学校教育関係者	委員	えがわ さとし 江川 誠志	三原台中学校長
	委員	たまおき かずひと 玉置 一仁	光が丘第八小学校教諭

練馬区立美術館運営協議会条例

昭和60年10月8日

条例第45号

(設置)

第1条 練馬区立美術館（以下「美術館」という。）の運営方針および事業計画を協議するため、練馬区立美術館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 協議会は、区長の諮問に応じてつぎに掲げる事項について審議し、答申する。

- (1) 美術館の運営方針に関すること。
- (2) 美術館の事業計画に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事項

2 協議会は、前項各号に掲げる事項について、区長に意見を述べることができる。

(定数)

第3条 協議会は、委員19人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、つぎの各号に定めるところにより、区長が委嘱する。

- (1) 学識経験者 8人以内
- (2) 練馬区議会議員 4人以内
- (3) 区民 3人以内
- (4) 美術団体関係者 2人以内
- (5) 学校教育関係者 2人以内

2 前項第3号に規定する区民は、公募により選任するものとする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長および副会長)

第6条 協議会に会長および副会長を各1人置く。

- 2 会長および副会長は、委員が互選する。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議長は、会長が務める。
- 4 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くこ

とができる。

(部会)

第8条 協議会は、第2条第1項に規定する事項について調査検討を行うため、部会を置くことができる。

2 部会は、会長の指名する委員をもって組織する。

3 部会は、協議会の求めがあったときは、必要な事項を報告しなければならない。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、地域文化部において処理する。

(委任)

第10条 この条例の施行について必要な事項は、練馬区規則で定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

付 則 (平成23年12月条例第53号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

付 則 (平成26年12月条例第49号)

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

1 平成30年度事業計画(案)

(1)平成30年度収支予算(指定管理者)

(単位：千円)

経費種別	支出			収入			
		施設管理費	事業費	人件費	指定管理業務費	利用料金・物販等	その他
人件費	57,803	0	0	57,803	57,803	0	0
美術館維持経費	76,677	76,677	0	0	72,768	1,460	2,449
展覧会事業費	91,684	0	91,684	0	48,328	42,356	1,000
教育普及事業費	3,311	0	3,311	0	2,961	350	0
地域活動事業費	291	0	291	0	291	0	0
練馬区立美術館維持運営費 計	229,766	76,677	95,286	57,803	229,766	182,151	44,166

(2)区直接執行予算(美術館維持運営費)

項目	支出額
美術館運営協議会委員報酬	447
再整備基本構想検討会委員等謝礼	660
再整備基本構想検討支援業務委託料	6,970
消耗品費	10
排煙設備改修等工事費	13,827
区執行額計	21,914

【参考】区直接執行予算(美術の森緑地維持管理費)

項目	支出額
光熱水費	170
修繕料	100
消耗品費	30
樹木せん定料	1,645
維持管理等委託料	2,894
維持補修費	4,382
区執行額計	9,221

(2) 展覧会事業(案)

平成30年度 展覧会事業日程(案)

3階展示室			2階展示室		
会期	展覧会名	担当	会期	展覧会名	担当
4月26日 6月17日 <46日間>	【有料】 戦後美術の現在形 池田龍雄展 楢円幻想				喜寿
6月22日 7月1日 <9日間>	【無料】 第64回練馬区美術家協会展		6月22日 7月29日 <33日間>	【有料】 生誕120年 中村忠二展 (仮称)	真子
7月3日 7月29日 <24日間>	(一般貸出)				
8月5日 9月24日 <44日間>	【有料】 芳年一激動の時代を生きた鬼才浮世絵師				加藤
10月7日 11月25日 <43日間>	【有料】 笠井誠一展 (仮称)				真子
12月1日 1月10日 <24日間>	(一般貸出)				
1月12日 1月16日 <4日間>	中学校生徒作品展		12月1日 2月11日 <58日間>	【有料】 人間国宝 桂盛仁の金工の世界 (仮称)	加藤
1月19日 1月24日 <5日間>	小学校連合図工展				
1月26日 1月27日 <2日間>	小中学校連合書きぞめ展				
2月2日 2月11日 <9日間>	【無料】 第50回練馬区民美術展				
2月24日 4月21日 <49日間>	【有料】 アール・デコの至宝、ルネ・ラリック展 (仮称)				小野

① 戦後美術の現在形 池田龍雄展 楢円幻想 開催要項

- 1 開催趣旨 1928年に佐賀県伊万里市に生まれた池田龍雄は、特攻隊員として訓練中に敗戦を迎えます。占領期に故郷の師範学校に編入しますが、軍国主義者の烙印をおされ追放にあいました。戦中から戦後の大きな価値の転回に立ち会い、時代に振り回され続けたこの体験が、池田の原点を形作りました。
- 1948年、画家を目指して上京した池田は、岡本太郎や花田清輝らによる〈アヴァンギャルド芸術研究会〉に飛び込みます。以後、文学、演劇、映像とジャンル横断的に繰り広げられる戦後美術のなかで、多彩な芸術家や美術批評家と交わりながら、自らの制作活動を展開していきます。
- 個人として厳しく社会と向き合いながら、一個の生命として宇宙の成り立ちを想像する。90歳を目前に控えたいまもお歩み続ける彼の画業は、時代と切り結び思考する苦闘の足跡であり、戦後から現在にいたる日本の美術や社会のありようを映し出しています。
- 練馬区立美術館では1997年に「池田龍雄・中村宏」展を開催しており、今回は練馬では20年ぶりの池田龍雄回顧展となります。本展では、50年代から第一線で活躍し続ける池田の作品に息づく、戦後美術の現在形に迫ります。
- 2 会 期 平成30年4月26日(木)～6月17日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館、朝日新聞社
- 4 内 容 ペン画、油彩、アクリル、オブジェ等 180点
- 5 図 録 制作
- 6 観 覧 料 800円
- 7 イベント 対談(池田龍雄、鳥羽耕史)、講演会(光田由里)、小林嵯峨舞踏公演、学芸員によるギャラリートーク、ワークショップ、記念コンサートを開催
- 8 観覧者見込 12,880人 (280人/日)
- 9 担 当 学芸員 喜多 孝臣

② 生誕120年 中村忠二展（仮称） 開催要項

- 1 開催趣旨

中村忠二（1898～1975）は、兵庫県飾磨郡御立村（現姫路市）に生まれ、20歳で上京。各地を転々としながら制作を続け、晩年の20年間に練馬区貫井で過ごした作家です。1919年日本美術学校に入学するも翌年退学、日本水彩展や光風会、国画会に出品しながら洋画団体「歩人社」や「トアル社」などを結成し、精力的に活動を続けました。1958年に友人・水波博の影響を受けてモノタイプ（ガラスや金属に描画して紙に転写する版画技法）の研究を始め、忠二でなければできないといわれるほどの大作も生み出しました。また自身の詩と絵を組み合わせた詩画の制作にも精力的に取り組み、生前5冊の詩画集を自費出版しています。一見荒々しい筆致ながらも繊細で叙情豊かな作品世界は、今もなお多くの人をひきつけています。

死後3年で故郷の兵庫県立近代美術館が「ある画家の生涯と芸術展—中村忠二—」を、また1997年には姫路市立美術館で「中村忠二展」が開催されましたが、関東でのまとまった展覧会は今まで開かれていません。2018年は生誕120年に当たり、練馬ゆかりの作家中村忠二の作品を紹介する、またとない機会となるでしょう。
- 2 会 期 平成30年6月22日（金）～7月29日（日）
- 3 主 催 練馬区立美術館
- 4 内 容 油彩画、水彩画、モノタイプ版画等 約60点
- 5 図 録 制作
- 6 観 覧 料 300円
- 7 イベント 学芸員によるギャラリートーク、ワークショップ等を開催
- 8 観覧者見込 4,455人（135人／日）
- 9 担 当 学芸員 真子 みほ

③ 芳年—激動の時代を生きた鬼才浮世絵師 開催要項

- 1 開催趣旨

月岡芳年（天保十年～明治二十五年・一八三九～一八九二）は江戸に生まれ、十二歳で武者絵の名手、歌川国芳に入門。幕末は武者絵を中心に、美人画、戯画など師の風に倣った作品を発表してきましたが、明治維新のきな臭い時代背景を通して、武者絵からリアルな戦闘画へと変化を見せます。この頃の作品をして”血みどろ絵“、“無惨絵“の芳年としたイメージが後世まで強く持たれてきました。一時期、神経を病んでいたこともこうした印象に拍車をかけていたのかもしれませんが。しかし、それは一時のことで、”大蘇“と名乗り出してからは、新聞挿絵や西南戦争に取材した作品、歴史画・風俗画などで、人気浮世絵師への階段を一気に駆け上ります。晩年の十年間に描いた錦絵は芳年画を印象付ける名作・代表作揃いで、最期まで武者絵や物語絵の可能性にこだわり続けた、まさに”最後の浮世絵師”と呼ぶにふさわしい画業を展開しました。

そうした幕末・明治の浮世絵の泰斗と呼ぶにふさわしい芳年ですが、その画業を回顧する展覧会は意外と少なく、未だ、しっかりと位置づけが行われていないと言って過言ではありません。

この展覧会は芳年のコレクションとしては質量ともに世界屈指といえる、西井正氣氏の収蔵品の中から選りすぐりの263点で、芳年の画業の全貌を紹介するもので、十五年ぶり、まさに待望の公開となるものです。
- 2 会 期 平成30年8月5日（日）～9月24日（月・祝）
- 3 主 催 練馬区立美術館、日本経済新聞社
- 4 内 容 錦絵版画、肉筆画、油彩画など 約263点
- 5 図 録 『芳年—激動の時代を生きた鬼才浮世絵師』
- 6 観 覧 料 1,000円
- 7 イベント 記念講演会、浮世絵版画摺りの実演、コンサート、ギャラリートークほか
- 8 観覧者見込 16,280人（370人/日）
- 9 担 当 学芸員 加藤 陽介

④ 笠井誠一展（仮称） 開催要項

- 1 開催趣旨 笠井誠一（1932～）は、札幌市に生まれ、東京と名古屋を中心に活躍してきた油彩画家です。17歳で上京し、練馬区内に居住。都立石神井高校、阿佐ヶ谷洋画研究所夜間部に通い、1953年東京藝術大学美術学部絵画科（油画・伊藤廉教室）に入学します。絵画科卒業、専攻科修了後は同大で副手を務めた後、1959年フランス政府給費留学生に合格。パリに渡りました。パリでは国立高等美術学校（エコール・デ・ボザール）のモーリス・ブリアンション教室で学び、サロン・ドートンヌに入選、フランス政府買い上げとなるなどの活躍を見せました。
- 66年の帰国後は、愛知県立芸術大学で教鞭を執る（～1998年）と同時に東京都八王子市にアトリエを構え、東京・愛知を往復する日々が始まります。70年代後半より、現在につながる静物画を中心とした制作が固められ、また85年以降は立軌会に同人として参加しています。
- 笠井は、楽器や日用品などのモチーフを、室内に配した静物画で知られていますが、本展では初期の風景画や人物画から始まり、現在までの笠井の画業を辿ると共に、アトリエで使用されているモチーフや資料などから、作家の緻密な構図を紐解いていきます。
- 2 会 期 平成30年10月7日（日）～11月25日（日）
- 3 主 催 練馬区立美術館
- 4 内 容 油彩画、資料等 約120点
- 5 図 録 制作
- 6 観 覧 料 800円
- 7 イベント 笠井誠一氏、学芸員によるギャラリートーク、ワークショップ等を開催
- 8 観覧者見込 9,030人(210人／日)
- 9 担 当 学芸員 真子 みほ

⑤ 人間国宝 桂盛仁の金工の世界（仮称） 開催要項

- 1 開催趣旨

盛仁（1944 生）は長年に亘り練馬区に在住し制作を続けている、人間国宝に認定された金工作家です。

江戸時代初期から続く彫金の一派、柳川派の流れを汲み、明治・大正・昭和期かけて、煙草入れなど装身具の彫金で大人気を博した豊川光長、桂光春を輩出した流派で、伯父である光春を継いだのが盛仁の父、桂盛行（1914-96）となります。

父、盛行のもとで修行した桂盛仁は打ち出しや彫刻、色金と色絵等の技法を駆使し、日本伝と工芸展などで高い評価を得てきました。宮内庁買い上げ、文化庁長官賞を受賞するなど研鑽を積み、2008 年に重要無形文化財「彫金」保持者（人間国宝）に認定されています。

昨今、明治期の卓越した工芸作品を”超絶技巧“と称し、ロストテクノロジーとしての評価がなされてきていますが、そうした工芸の技術は脈々と受け継がれてきていることは、柳川派、桂派、そして桂盛仁の金工を見ると明らかです。

この展覧会では、桂盛仁の初期から近作までを通観するとともに、桂のルーツである、盛行、そして、豊川光長、桂光春の作品も併せて展示し、今に生き続ける江戸金工の技を再認識する展覧会です。
- 2 会 期 平成 30 年 12 月 1 日（土）～平成 31 年 2 月 11 日（月・祝）
- 3 主 催 練馬区立美術館
- 4 会 場 練馬区立美術館 2 階展示室
- 5 内 容 金工作品、道具など 50 点
- 6 図 録 制作予定
- 7 観 覧 料 300 円
- 8 イベント 記念講演会、ギャラリートーク、ワークショップ ほか
- 9 観覧者見込 8,120 人（140 人/日）
- 10 担 当 学芸員 加藤 陽介

⑥ アール・デコの至宝、ルネ・ラリック展（仮称） 開催要項

- 1 開催趣旨 ユニマットホールディングの創業者である高橋洋二氏は、洋の東西を問わず様々な美術品を蒐集し、コレクションを築き上げています。西洋美術コレクションは、ルノワールなどの近代絵画、ヴェネチア・ガラスや香水瓶、ルネ・ラリックのガラス作品、さらには古代ギリシア美術など多岐に渡っています。

このコレクションから、本展では、20世紀初頭のアール・デコを代表するルネ・ラリックに着目し、その世界観に迫ります。ラリックは、宝飾デザイナーから始まり、やがてガラス工芸作家となります。彼は、花瓶、置時計、アクセサリ、香水瓶などを制作し、1920年代には大変な人気作家として広く認知されていました。1925年のパリで開催された現代装飾美術・産業美術展ではパヴィリオンを与えられ、まさにアール・デコ様式を牽引する存在として、世界中にその名を轟かせることとなります。日本とも関係が深く、1932年に旧皇族の朝香宮邸（現在の東京都庭園美術館）のシャンデリアなどを手掛けています。

高橋氏のラリック・コレクションから、ガラス作家として活躍したラリックの1910年代から40年代までの約150点を紹介します。

- 2 会 期 平成31年2月24日（日）～4月21日（日）
- 3 主 催 練馬区立美術館
- 4 展 示 ガラス工芸など 約150点
- 5 図 録 制作
- 6 観 覧 料 800円
- 7 イベント 記念講演会、コンサート、ギャラリートークほか
- 8 観覧者見込 12,500人（250人／日）
- 9 担 当 学芸員 小野 寛子

(3)教育普及事業

平成30年度 教育普及事業計画(案)

平成30年2月15日現在

館内事業

I) 展覧会関連 (各展覧会を楽しむ)

① 関連ワークショップ・講座

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	池田龍雄展関連ワークショップ「部屋の中＝箱の中 -美術館にあるものを、並べて／重ねて／繋げてみる-」 講師:富井大裕 (アーティスト)	5月20日(日) 10:30～12:30、14:00～16:00	2	小学生以上	各回 15名
2	中村忠二展関連美術講座「モノタイプ版画」 講師:山口 茉莉 (版画家)	7月	1	中学生以上	15名
3	中村忠二展関連ワークショップ「未定」 講師:真子 みほ (当館学芸員)	7月	2	小学生	各回 15名
4	月岡芳年展関連美術講座「浮世絵」 講師:未定	8月	1 (2日間)	小学5年 ～中学生	15名
5	月岡芳年展関連ワークショップ「芳年の色」 講師:真子 みほ (当館学芸員)	8月	4	小学生	各回 10名
6	笠井誠一展関連美術講座「静物画」 講師:未定	11月	1 (2日間)	中学生以上	15名
7	桂盛仁展関連当日受付ワークショップ「未定」 講師:真子 みほ (当館学芸員)	1月19日(土)、20日(日) 10:30～11:30、13:30～14:30、 15:00～16:00	6	小学生以上	各回 10名
8	桂盛仁展関連美術講座「金工」 講師:未定	1月	1 (2日間)	中学生以上	15名
9	ルネ・ラリック展関連ワークショップ「プロダクトデザイン」 講師:未定	3月	1	中学生以上	30名

② ギャラリートーク

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	池田龍雄展	5月24日(木)、6月7日(木) 15:00～	2	自由参加	—
2	中村忠二展	6月	1	自由参加	—
3	月岡芳年展	8～9月	2	自由参加	—
4	笠井誠一展	10～11月	2	自由参加	—
5	桂盛仁展	11～2月	2	自由参加	—
6	ルネ・ラリック展	2～3月	2	自由参加	—

③ コンサート・ライブパフォーマンスなど

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	池田龍雄展関連舞踏講演 出演:小林嗟峨 (舞踏家)	5月18日(金)17:00～	1	自由参加	—
2	池田龍雄展関連映画上映会 『薔薇の葬列』『The Painter』	5月19日(土)14:00～17:00	1	中学生以上	50
3	池田龍雄展関連記念コンサート 出演:近藤伸子(ピアノ)、佐藤まどか(ヴァイオリン)	5月27日(日)15:00～16:00	1	自由参加	—
4	中村忠二展	未定	未定	自由参加	—
5	月岡芳年展	未定	未定	自由参加	—
6	笠井誠一	未定	未定	自由参加	—
7	桂盛仁展	未定	未定	自由参加	—
8	ルネ・ラリック展	未定	未定	自由参加	—

④ 鑑賞プログラム

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	中村忠二展関連 トコトコ美術館 テーマ:むし	6月	6	3歳～6歳 +保護者 小学1・2年生 +保護者	各回 5組
2	笠井誠一展関連 トコトコ美術館 テーマ:がっさ	10月	4	3歳～6歳 +保護者	各回 5組
3	笠井誠一展関連 あかちゃん鑑賞会 講師:真子 みほ (当館学芸員)	11月	2	0～2歳の赤 ちゃんとその 家族	各回 16名
4	桂盛仁展関連 トコトコ美術館 テーマ:きんぞく	12月	6	3歳～6歳 +保護者 小学1・2年生 +保護者	各回 5組

⑤ 講演会など

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	池田龍雄展関連記念対談 「池田龍雄を貫くものールポルターージュからパフォーマンス、オブ ジェまで」 登壇:池田 龍雄、鳥羽 耕史(早稲田大学文学学術院教授)	5月12日(土)15:00～16:30	1	中学生以上	70名
2	池田龍雄展関連記念講演会 「池田龍雄、反芸術以降」 講師:光田 由里(DIC/川村記念日術館学芸員)	6月9日(土)15:00～16:30	1	中学生以上	70名
3	中村忠二展	未定	1	中学生以上	70名
4	月岡芳年展	未定	1	中学生以上	70名
5	笠井誠一展	未定	2	中学生以上	70名
6	桂盛仁展	未定	1	中学生以上	70名
7	ルネ・ラリック展	未定	2	中学生以上	70名

Ⅱ) 美術講座 (美術に関する知識を学ぶ)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	〈美術講座〉日本画 講師:未定	11月	1 (2日間)	中学生以上	15名
2	〈美術講座〉彫刻 講師:未定	2月	1 (2日間)	中学生以上	15名

Ⅲ) 美術館を楽しむワークショップ(人が集う「場」作り)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	四季のみじたくシリーズ37夏のみじたく 講師:未定	6月	1	小学4年生 以上	20名
2	美術館をつかまえる!?館内探検とフロッターージュ 講師:真子 みほ(当館学芸員)	8月	4	5歳～ 小学2年生	各回 10名
3	四季のみじたくシリーズ38秋のみじたく 講師:未定	9月	1	小学4年生 以上	20名
4	四季のみじたくシリーズ39 冬のみじたく 講師:未定	11月	1	小学4年生 以上	20名
5	四季のみじたくシリーズ40 春のみじたく 講師:未定	3月	1	小学4年生 以上	20名

学校関連事業

I) スクールプログラム

パンフレットを作成し各学校に配布。

① 団体鑑賞	美術館担当者がマナーの説明や展示解説を行い鑑賞のお手伝いをする
② 施設見学	各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設を紹介する
③ 職場体験・訪問	受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝える
④ 出張プログラム	担当者が学校へ赴きコレクションや開催中の展覧会に関連した授業のお手伝いをする

II) ティーチーズデイ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中高等学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設ける。

各回ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とする。平成30年度は6回開催する。

	展 覧 会 名
1	池田龍雄展
2	中村忠二展
3	月岡芳年展
4	笠井誠一展
5	桂盛仁展
6	ルネ・ラリック展

III) スクールミュージアム

美術館の所蔵作品を学校の授業に役立ててもらうため、紙製の図版カード(トランプ大)、マグネットシート(A4版/A3版)、専用パネルの貸し出しを行う。これらのツールは、平成18年文化庁芸術拠点形成事業助成を受け、当館の所蔵作品から104点を選出し、作成された。

2 平成29年度 事業報告

(1) 展覧会事業

平成29年度 展覧会事業日程および観覧者数

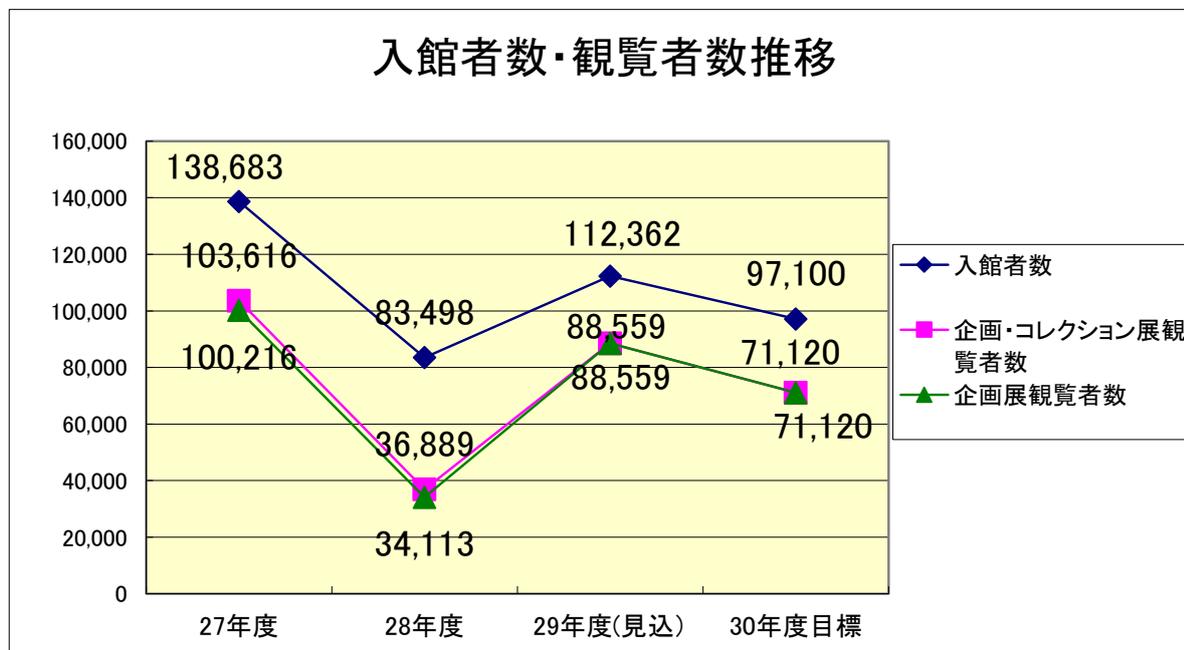
(ア) 企画展等

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
4月16日(日) ～6月4日(日)	練馬区独立70周年記念展 19世紀パリ時間旅行-失われた街を求めて-	43	16,340 (380)	15,804 (368)	96.7%
6月9日(金) ～7月14日(金)	生誕110年記念 漆の画家 太齋春夫展	31	4,650 (150)	3,296 (106)	70.9%
7月23日(日) ～9月18日(月)	練馬区独立70周年記念展 生誕150周年 藤島武二展	50	22,500 (450)	16,869 (337)	75.0%
9月28日(木) ～11月19日(日)	練馬区独立70周年記念展 没後20年 麻田浩展-静謐なる楽園の廃墟-	46	16,100 (350)	7,986 (174)	49.6%
11月26日(日) ～2月11日(日)	小野木学 絵本原画展 ぼくの中のコドモ	62	12,400 (200)	11,044 (178)	89.1%
12月20日(水) ～12月27日(水)	練馬区名誉区民顕彰記念 野見山暁治収蔵作品展	7	1,400 (200)	1,360 (194)	97.1%
2月22日(木) ～4月15日(日)	練馬区独立70周年記念展 サヴィニャック パリにかけたポスターの魔法	46	32,200 (700)	32,200 (700) (見込)	100.0%
	合 計	285	105,590 (370)	88,559 (311) (見込)	83.9%
	前年度	256	48,625 (190)	34,113 (133)	前年度比 259.6%

(イ) 各種展覧会

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者実数 (1日当り)	
6月9日(金) ～6月18日(日)	第63回練馬区美術家協会展	9	1,514 (168)	
1月13日(土) ～1月17日(水)	中学校生徒作品展	4	3,607 (902)	
1月20日(土) ～1月25日(木)	小学校連合図工展	5	8,704 (1,741)	
1月27日(土) ～1月28日(日)	小・中学校連合書きぞめ展	2	10,130 (5,065)	
2月3日(土) ～2月11日(日)	第49回練馬区民美術展	8	2,072 (259)	
	合 計	28	26,027 (930)	前年度比 97.7%
	前年度	28	26,627 (951)	

入館者数比較	28年度	29年度	前年度比
	83,498	112,362 (見込)	134.6%



(2)美術作品の収集事業

①平成28年度 美術作品の収蔵状況

(平成29年4月1日現在)

年度	日本画		洋画		版画		工芸		書		彫刻・立体		その他		計		合計
	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	
59	6		9	1			1	2							16	3	19
60	1	1	5	1		1				1					6	4	10
61		7	14	221	14	28								317	28	573	601
62	3	1	32	16	9	1							1	1	45	19	64
63	2	1	15	1	12										29	2	31
1	2		5	48											7	48	55
2	4	1	19	29	4	1									27	31	58
3	2	1	14	13											16	14	30
4	2	1	12	10	18	9									32	20	52
5	2		1	2											3	2	5
6	1	1	15	7		1					1				17	9	26
7	2	4	4	3		1						1			6	9	15
8	1	2	2	9	5	1									8	12	20
9			12	2	1	46									13	48	61
10	3	4	12	21											15	25	40
11		4	12	5		134									12	143	155
12		8		11											0	19	19
13				13											0	13	13
14		29		13											0	42	42
15		1	6	8	12	77									18	86	104
16		65		6											0	71	71
17		6		20											0	26	26
18		30		121		97								8	0	256	256
19		17		40				5				7		7	0	76	76
20		8		31		21									0	60	60
21		8		44		98						13			0	163	163
22		11		168		9								3		191	191
23		8		13								1		123		145	145
24		32		10		33										75	75
25															0	0	0
26		13	1	422		215						22		2084	1	2756	2757
27		5		97		112		25						18	0	257	257
28		25		22												47	47
合計	31	294	190	1428	75	885	1	32	0	1	1	44	1	2561	299	5245	5544

平成29年4月1日現在
寄託作品 1886 点

購入・寄贈・寄託計 7,430点

(3) 広報活動と反響

「没後 20 年 麻田浩展 —静謐なる楽園の廃墟—」

(平成 29 年 9 月 28 日～11 月 19 日)

<p><テレビ> J:com 「デイリーニュース (練馬・新座・和光)」 10 月 20 日放送 18:00～18:30</p>	
<p><新聞> 日本経済新聞 9 月 25 日朝刊・9 月 29 日夕刊・10 月 4 日夕刊・10 月 5 日夕刊・10 月 16 日朝刊 毎日新聞 10 月 25 日夕刊 東京新聞 10 月 27 日朝刊 朝日新聞 11 月 14 日夕刊</p>	
<p><美術雑誌> 美術の杜 vol.44 月刊ギャラリー 2017 年 9 月号 美術展びあ 2017 秋冬 PB 2017 年 9 月 15 日発売 新美術新聞 2017 年 9 月 21 日号 アートコレクターズ 2017 年 11 月号 一枚の繪 2017 年 11 月号</p>	<p><雑誌> 究極漢字 2017 年 11 月号 季刊『住む』 2017 年秋号 IZANAGI 2017 年 10 月号 月刊武州路 2017 年 9 月号・10 月号・11 月号</p>
<p><地域情報誌> びいーゆ 2017 年 9 月号</p>	<p>カンフェティ 2017 年 10 月号</p>
<p><WEB> G-CALL SPICE アートアジェンダ ShareArt 個展なび ART NAVI (美術手帖) 今見られる全国のおすすめ展覧会 100</p>	<p>ホルベインアーティストナビ myLiFE+ インターネットミュージアム ぶらり美術館 Penonline</p>
	他

「練馬区名誉区民顕彰記念 野見山暁治 収蔵作品展」

(平成 29 年 12 月 20 日～平成 30 年 12 月 27 日)

<テレビ>		
<新聞> 赤旗新聞 12月8日		
<美術雑誌> 美術の窓 2018年1月号	<雑誌>	
<地域情報誌>		
<WEB> 練馬経済新聞 タイムアウト東京 みんなの経済新聞 J:com 練馬人図鑑		嘉中・嘉徳高等学校関東地区同窓会 ホームページ 一般財団法人 野見山暁治財団 ホームページ
他		

「小野木学 絵本原画展 ぼくの中のコドモ」

(平成 29 年 11 月 26 日～平成 30 年 2 月 11 日)

<テレビ> J:com 「デイリーニュース (練馬・新座・和光)」 12 月 7 日放送 18:00～18:30	
<新聞> 陸奥新報 11 月 29 日	
<美術雑誌> 美術の窓 2017 年 12 月号	<雑誌> 月刊 MOE 2018 年 1 月号 いけ花 龍生 2018 年 1 月号
<地域情報誌> びいーゆ 2017 年 12 月号	カンフェティ 2017 年 10 月号
<WEB> shareArt アートアジェンダ 個展なび 東京観光財団 ぶらり美術館 JR 東日本「駅たび net」観光スポット・ イベント情報 (東日本のみ) JR 西日本「おでかけネット」観光スポッ ト・イベント情報 (西日本・首都圏エリ アのみ)	
株式会社リクルート「じゃらん net」観光ガイド インターネットミュージアム Patina (パティーナ)	
他	